

設立の背景と目的

設立の背景

- 一機関が資金・人材・技術等の研究資源を単独で獲得・開発することは年々困難の度を増している。
- 複数機関に限られた資源を共有し、相互の長所・短所を補完するための場が必要である。
- 大規模学術フロンティア促進事業「[日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画](#)」を通して、国内外50以上の機関をむすぶ研究ネットワークを構築してきた[国文学研究資料館](#)が幹事機関となり、国内外の機関が共同で、2020年11月、日本古典籍研究に特化した国際コンソーシアムを設立することとなった。

日本古典籍研究とは

- 対象：19世紀までの日本で作られたあらゆる書物。これを「日本古典籍」と呼ぶ。
- 方法：原資料の形態や伝来を調査し、歴史的文脈に即して内容を読み解く。
- 目的：19世紀までの日本を対象に、文字・絵による記録の生成・伝播・保存について実証的に考究し、様々な異なる社会環境・自然環境の中を生きた人間の知識・行動・思考・感性について調査することで、我々が過去から引き継いだ世界について理解を深める。
- 課題：文理を問わず、多分野からのアプローチ、及び多分野へ向けられたアウトプットが、今後の日本古典籍研究、また人文学研究の発展に不可欠である。

設立の目的

日本古典籍を対象とした研究と教育の深化・発展のために、国内外の機関が情報や研究資源を共有できる場を構築することを目的とします。

特に、次の3点について、国内外の学生・研究者・専門職員が協働できる場をともに作り上げていくことを目指します。

1. 人材（学生・研究者・専門職員〈司書・学芸員・アーキビスト等〉）の育成
2. 先端的研究に基づく研究成果発信等に関する情報・資源の共有
3. データベースの活用等に関する情報・意見交換

期待される効果

- 専門的な知識・技能・研究手法の修得機会へのアクセス改善
- 教材（動画も含む）の共有や共同開発
- 授業の共同開設による単位認定や共同指導の可能性の模索
- 研究費の拠出
- 国・地域や分野をまたがる共同研究の促進、学会パネルの組成、イベントの共同企画
- 学会・学術誌の活性化
- デジタルデータやデータベースの活用に関する意見交換や技術の共有
- 国・地域を超えた実績評価指標の検討
- 研究成果の社会への還元

From:

<https://kotenseki.org/> - 日本古典籍研究国際コンソーシアム

Permanent link:

<https://kotenseki.org/about/purpose?rev=1594104609>

Last update: **2020/07/07 15:50**